

3 ヒートアイランド対策

(1) ヒートアイランド現象の現状

ヒートアイランド現象とは、都市部の気温が郊外に比べて高くなる現象です。道路や建物の蓄熱や放熱、エアコンや自動車からの排熱などにより気温上昇作用が増大することや、樹木や水面から水が蒸発するときの気温低下作用が減少することなどが原因と考えられています。

ヒートアイランド現象による都市の高温化を示す一つとして、熱帯夜日数（大阪管区气象台のデータ、日最低気温が 25℃以上となった日数）を見ると増加傾向を示していましたが、平成 12 年以降は、概ね横ばいとなっています。

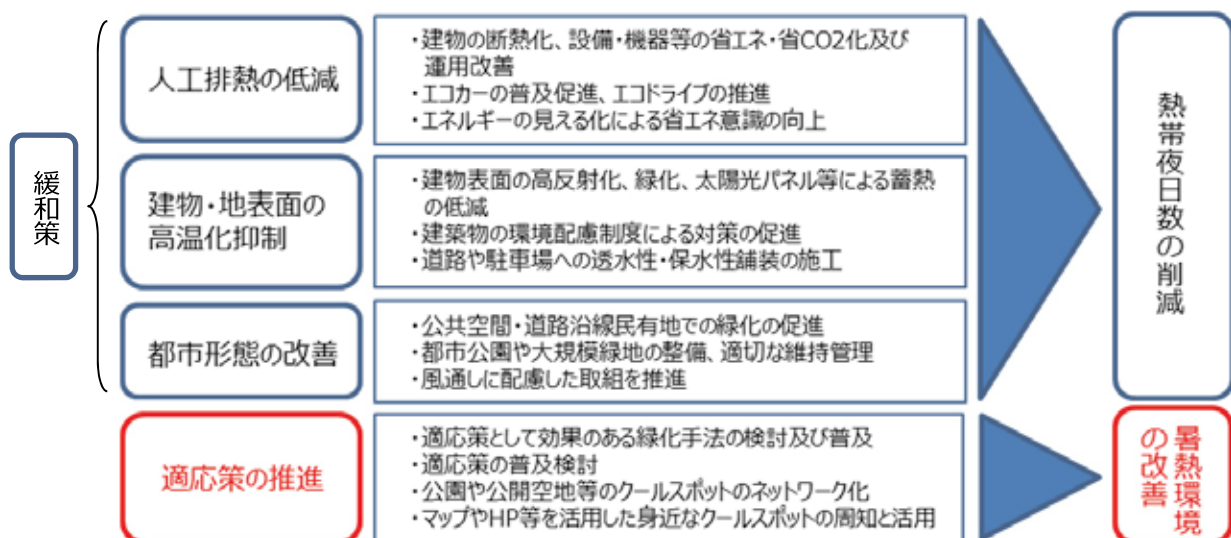


※ 5年間の移動平均：その年および前後2か年を含めた5か年の平均値

(2) 主な取組み

ヒートアイランド対策については、平成 27 年 3 月に大阪府とともにヒートアイランド対策の基本的な考え方や目標、取組内容を定めた「おおさかヒートアイランド対策推進計画」を策定しました。本計画に基づき、人工排熱の低減や建物・地

表面の高温化抑制等の取組みである「緩和策」の着実な推進に加えて、熱中症などの人の健康への影響等を軽減する取組みである「適応策」の推進を対策の基本的な考えとし、次の取組みを中心とした施策を進めていきます。



① 公共施設での緑のカーテン・カーペットづくり

区役所、学校などの公共施設において、ゴーヤやサツマイモなどを使ったヒートアイランド対策として、緑のカーテン・カーペットづくりに取り組んでいます。

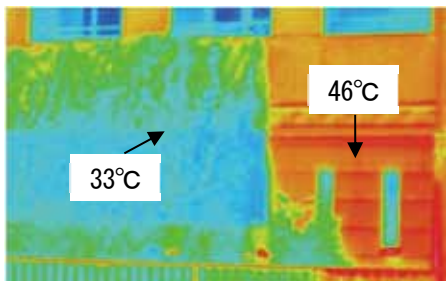
緑のカーテン・カーペットは、日差しによる建物の高温化を抑え、建物からの夜間の放熱を抑制する効果が期待できます。

また、室温の上昇を抑えることで、エアコンの使用時間を短くできるなど省エネルギー効果が期待できます。

平成28年度は各区役所、学校など347施設で実施しています。



緑のカーテン



緑のカーテンの熱画像

② 「大阪打ち水大作戦」の実施

ヒートアイランド対策の一環として、市内各所で市民、事業者との協働により、「大阪打ち水大作戦」を実施しています。

平成28年度 市民等との協働による実施 32か所



「大阪打ち水大作戦 2016」の様子

③ 「風の道*」における施策の推進

ヒートアイランド現象の緩和には、大阪湾から吹く涼しい海風を都心部へ誘導することが効果的です。また、ヒートアイランド対策の一つに「風」の活用を位置づけ、長期的な視点で、大阪湾からの涼しい海風を活用したまちづくりの指針である『風の道』ビジョン〔基本方針〕に基づき官民一体となった「風の道」における施策を推進しています。

④ 適応策の普及

ヒートアイランド現象による都市の気温上昇が熱中症といった健康被害を及ぼしており、それらの影響を抑制する対策が「適応策」と呼ばれています。

主に人をターゲットとした夏の昼間の暑熱環境（人の身体に影響を与える暑さ環境）を改善する取組みについてリーフレットや講座などにより普及啓発を行っております。

